

第2回 北九州市地域福祉計画策定懇話会 議事要旨	
日時・場所	平成22年7月30日(金) 13:30~15:30 北九州市立男女共同参画推進センタームーブ 5階 大セミナールーム
発言者	内 容
	<p><b>【1 開会】</b></p> <p><b>【2 新委員紹介】</b> 懇話会の副座長であった野田委員の退任に伴い、北九州市医師会副会長、村上委員が新たに委員として就任。</p> <p><b>【3 副座長の選出】</b> 村上委員を副座長に選出。</p> <p><b>【4 議題 「北九州市の地域福祉(初案)」について】</b></p>
	<p><b>全体構成について</b></p> <p>(資料1について説明)</p>
座長	「北九州市の地域福祉」という名称では分かりにくい。“2011~2021”と期間を後ろに付けるか“プラン”という言葉を入れてはどうか。
計画調整担当課長	計画期間を入れる等考慮をしたい。
	<p><b>第1章 『「北九州市の地域福祉」の策定にあたって』について</b></p> <p>(資料2について説明)</p>
委員	資料中のフロー図について、 と の関係を示す矢印が適切ではない。これまでの取組の結果として地域社会が変化していると受け取れてしまうので、この矢印は削除した方がよい。
計画調整担当課長	矢印については削除する。
委員	子育て中である親の立場からの意見であるが、誰かに助けて欲しいと思ったときに具体的なサービスについて窓口で聞いてもよく分からないことがある。これも地域の課題であるように思う。
座長	メニューはあっても、それを周知する、もしくは市民に伝えるシステムが無いということ。
計画調整担当課長	サービスがあるだけでは不十分で、それを周知する必要がある。その点についても記述することを考えている。
委員	もはや行政では限界が来ていて、個別の要件で引っかからないけれども何とかかましようと思えばと受け取ってよいか。そこを明確にしておかないと計画を作ればつくる程、住民のニーズから外れていくという結果になりそうな気がする。そもそも個人の要望と全体というのはすり合わせられないところがあると思うが、そういったところも努力していきますという計画であるというふうに理解してよいか。
座長	当然のことと思う。
計画調整担当課長	行政側はサービスを提供するときに制度を作る。すると、要件に合致する人はサービスを受けられるが、合致しない人は受けられないという

	<p>ことになる。このように行政の限界があることから、地域住民に少しずつでもできることをしていただくということになると考えている。</p>
副座長	<p>北九州市の従来の計画は全て素晴らしいものだと思う。しかし、区や地域住民などの末端までは伝わっていないような気がする。逆に、末端からのフィードバックも足りないような気がする。計画はよいが、問題はそれが実行できているかどうかである。地域住民にこの計画をいかに浸透させるかということが一番大事だという気がする。</p>
計画調整担当課長	<p>この計画は市民に読んでもらい内容を理解いただく必要がある。その意味において、できるだけ読みやすいようにあまり分厚い計画にならないように留意したい。PRの仕方については、計画の概要版を市民に配布するなどの対応をしたいと考えている。</p>
副座長	<p>市民に配布するとか、ホームページを見てくださいというのは一方的である。例えば民生委員さんの集まりの時に区の人に説明してもらおう等の対応をしなければ伝わらない。</p>
委員	<p>区役所の窓口に行っても、担当者によって適切な情報をくれる人とくれない人がいる。情報が各市民に行き渡っていないという課題よりも、窓口に出向いた時に、行政から適切に説明できる仕組みがないことの方が大きいと思う。職員教育を充実させることが必要だと思う。</p>
計画調整担当課長	<p>職員の質の問題等、いろいろあると思う。区の窓口のあり方についても考えがあるので、また意見を伺いたい。</p>
委員	<p>高齢者や障害者、子どもなど、支援を必要とする人達に関しての記述が、かわいそうな人というようなニュアンスに感じられる。そうではなく、人権の視点をきちんといれていくべきではないか。</p>
計画調整担当課長	<p>文章については、現在は案の段階であるが、今後考慮したい。</p>
座長	<p>この計画案は行政も含めて皆で協力しあって地域福祉の支え合いのまちを作っていこうと、そういう視点である。そういう意味で行政の限界を超えたところ、個別のニーズに対してもできるだけそれに対応できるようなシステムを考えていこうとなるものである。</p> <p>必要な情報が必要なだけ、それを必要とする住民に届いているのかといった確認のシステムについても、重要なことだと思う。</p>
	<p><b>第3章『これまでの取組みと今後の課題』について</b>  <b>(1) 三層構造による地域福祉のネットワークの総括</b></p>
委員	<p>地域福祉のネットワーク作りが定着してきていると言いながら、一方では三層構造の問題点もあると思う。その問題点の検証と問題点の修正の仕組みは無いのか。</p>
計画調整担当課長	<p>これまでの計画の中で、三層構造の見直しの議論まではなされていない。これまでの三層構造の取組によって我々が地域福祉をしていくうえでの基盤になるものが出来たわけだが、かといってそれだけでは機能しない。その問題をどうするかということは、まさに今期の計画の中で触れることになると思う。</p>
委員	<p>三層構造は建物やまちづくり協議会等の制度としては一定の成果があったと思う。しかし、三層構造は下の方の組織作りに失敗していると思</p>

	<p>う。私たちが市民センターを利用しようと思っても満杯でなかなか場として利用できない。地域の財産として障害者や高齢者の施設、医療施設などの場を提供できる部分はたくさんあると思うので、それを地域福祉の範疇に取り込んでいって欲しい。</p>
座長	<p>障害をお持ちの方たちが市民センターを利用するのは難しい状況である。障害者の人たちの組織の単位が校区レベルの組織単位にはなっていない。</p>
委員	<p>身近な拠点である市民センターが障害者団体にとっては非常に使いづらい。どこかの市民センターを借りたいと思ったときに、地元の団体等が優先されていて使えない。</p>
委員	<p>事業をやる場合には当然相手となるお客さんがいる。今回の地域福祉の取組について、お客様は誰なのか。そしてその結果としての評価はどうだったのか。お客様の視点がないように思う。</p> <p>市民全員からアンケートを取るのではなくて、たとえば高齢化の問題であれば高齢者の方が施設を利用してどうだったかとか、障害者の方がどうだったのかとか、そういう視点が抜けているような気がしてならない。</p>
計画調整担当課長	<p>この計画を作る前段として、地域福祉に関する市民意識調査をやっている。高齢者に対しては高齢者実態調査をするということにしている。</p> <p>今回の地域福祉は、顧客という意味で言えばすべての市民となるが、計画の実現のために市民にも取り組んでもらいたいこともあるため、どのように評価するかは大変に難しいと考えている。</p>
委員	<p>市民センターは福祉とは少し縁遠いみたいな気がする。市民センターは貸し館ではない。</p>
委員	<p>市民センターは福祉、教育、まちづくり、この三本柱でやっている。そのうち教育の部分がかなり大きくなっており、どうしても福祉やまちづくりの部分が薄くなっている。また、使いたいときにセンターが空いていないというのはどこの区でもあると思う。これについては教育委員会の抱えている生涯学習をどこかで譲らないと解決できない。</p>
座長	<p>ここで大事なものは教育、福祉、まちづくりのバランスが教育に偏りすぎているということである。これは庁内で調整してもらわないと解決できない。</p>
委員	<p>地域福祉のネットワークの充実、強化を目指すというふうにあるが、どうなったら充実している、どうなったら強化されたと評価できるのか。</p>
計画調整担当課長	<p>地域福祉のネットワーク作りというのはおそらくずっと言い続けたいといけないうことだと思っている。これが出来上がるとネットワークが出来上がったということを書くとか見せるということは非常に難しい。最終的には概念的な部分も残るかもしれない。</p>
	<p><b>第3章 『これまでの取組みと今後の課題』 について</b>  <b>(2) 「健康福祉北九州総合計画」の主な成果と今後の課題</b></p>
委員	<p>小児救急医療体制の充実とあるが、高齢者の救急医療体制の充実はどうなっているのか。</p>

計画調整担当課長	小児救急に関しては別に仕組みを構築していることから、ここでは象徴的に挙げた。
委員	私の住んでいる団地では、私の両隣の世帯が一昨年と昨年、いわゆる孤独死で亡くなられた。孤独死を発見したときにどのような対応をすべきか教えて欲しい。
計画調整担当課長	発見されたときの状態や様々な状況によって異なると思うが、まずは救急だと思う。警察に連絡するというのももちろん大事であろうし、区役所であればいのちをつなぐネットワークを担当しているところもある。
地域支援部長	発見のされ方がいろいろある。役所の方から警察に連絡することもある。また、役所に連絡が入る前に地域の方が警察に連絡し、警察から役所に連絡が入るということもある。
委員	明らかに死亡している場合は警察。病院に送ればなんとかなるという可能性があれば消防に連絡する。これが基本。
座長	一番大事なのは孤立死、孤独死の数がそれによってどの程度減ったのかということ。過去5年間の孤立死、孤独死のデータがもしあればそれを挙げる必要があるのではないかと。
計画調整担当課長	孤独死、孤立死の数が何人くらいいるかというのは、正確な数として把握するのは難しい。
副座長	私のよく知っている事例では、いのちをつなぐネットワークの職員は非常に熱心に取り組んでおり、こうした姿勢が重要ではないかと思う。 また、本市は一次から三次までの救急体制が出来上がったと思うが、救急医療体制の充実についての市民のニーズは相変わらず高い。行政や我々関係者を含めて、市民の安心のための体制づくりが必要だと思う。
座長	校区、地区の社会福祉協議会といのちネットワークとの関係が弱いのではないかと。既にある社会資源をフルに使うという体制で臨んでいただけたらと思う。
委員	社会福祉協議会の福祉協力員と民生委員といのちをつなぐネットワークは連携できている。
座長	今委員が言ったような状況が全市でみられるかということ、必ずしもそうでない地域も結構あるということを申し上げた。上手く連携出来てないところは是非点検して、協働体制を作って頂きたいと思う。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <b>第4章 『「北九州市の地域福祉」の基本的な考え方』について</b> </div>	
委員	相談窓口を充実させて対応していくということであるが、相談窓口をいくら充実させても受け皿が無ければ職員も困惑するだろうし、相談に行った市民も行政は役に立たなかったと失望するだろう。窓口を充実させるとともにハード面の整備も同時進行で進めていただきたい。
委員	ぜひ学校教育の中で認知症に対する取組みを入れていただけたらと思う。

	<p>地域福祉活動への参加とネットワーク化の促進というところでは、ネットワーク化をするためにはそれらをつなぐ人が必要である。コーディネーターを養成することも重要だが、いろんな方が参加できる開かれた“場”を設定することも有効だと考える。</p>
委員	<p>自助、共助、公助についてはインパクトがあるし良いと思うので、「北九州市の地域福祉」のサブタイトルとして使うのはどうか。</p>
委員	<p>大学等に提案して、地域社会の実態や地域の高齢者の死などについて研究してもらってはどうか。</p>
座長	<p>自助、共助、公助の役割を一人ひとりが理解し、適切なバランスを保ちながらそれぞれが積極的に役割を果たしていくことが必要だが、それだけではなく、それぞれがそれぞれの役割を果たすとともに、お互いに連携、協働するということが大事。相互に連携、協働することが必要だという文言も入れていただきたい。</p> <p>また、「地域で活動する各主体と行政の連携、協働と新しい公共への取組」とあるが、新しい公共が別にあるのではなく、それぞれの団体が作る公助、共助、自助とともに連携することによって新しい公共を作りだしていくというのが筋である。</p>
	<p><b>【 5 その他 「北九州市地域福祉計画策定に向けた意見交換会」の開催について】</b></p>
委員	<p>紙面で呼びかけるということは誰でも参加できるということか。また、説明会ではなく意見交換会ということだが、特にやり方の違いみたいなことはあるか。</p>
計画調整担当課長	<p>誰でも参加することができる。意見交換会なので、単なる説明会ではなく、市民から様々な意見をいただきたいと思っている。</p>
委員	<p>実際にどのように進行するのが気になる。行政の方が進行していくということになると、対市的なやり取りになってしまうのではないかと心配している。また、一時間半というのは短いように思う。</p>
計画調整担当課長	<p>この時間で十分意見が聞けるのかということもあると思うが、それぞれの区で開催するのである程度時間は区切らせていただきたい。</p>
	<p><b>【 6 閉会】</b></p>